

【選択必修：子どものこころの理解の仕方

—教室でできる心理学の視点からのアプローチ—

■開講日程

- ◇事前学習期間 2021年11月18日(木)～11月29日(月)
- ◆双方向型ライブ配信日時 2021年12月11日(土)13時～16時05分(休憩含)
- ◇修了試験 2021年12月11日(土)16時10分～ [試験時間1時間]

■担当講師 原田 眞理 (教育学部 教授)

■主な受講対象者 小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭

■講習の概要

この講習では、目に見えないところについて、子ども達や保護者から発信されるところのサインを学習し、心のメッセージの読み取り方を学習する。言語以外のところの表現方法も学習し、教育場面におけるところの理解と対応を中心に授業を進める。発達障害の理解と支援にも触れる。

現代の教育場面では、学校内で様々な問題(いじめ・不登校・学級崩壊など)が多発し、児童生徒理解ということが強調され、カウンセリングマインドを持った教員が求められている。日常的にさまざまなことが起きる教室において役立つように、事例を交えて、理解に基づく教育相談のアプローチ方法を学ぶ。

気候変動の影響などで増加している自然災害や、事故事件、虐待などのトラウマに対する教員ができるところのケアを学ぶ。

■到達目標

- ・子どもや保護者の発信するサインに気づき、ところのメッセージを読み取ることができるようになる。
- ・学校内で起きる問題(いじめ、不登校、学級崩壊など)について、子どもを理解した上で、対応法を考え、アプローチすることができる。
- ・自然災害や事故などの後の子どものこころのケアの初歩的知識を得ることができる。

■講習内容

1. 他者を理解するということ

他者理解とは、目に見えないところのサインに気づき、その意味を考えていく、すなわち、児童生徒・保護者の表面に現れた行動で是非を判断するのではなく、じっくり話を傾聴し、一体何を伝えたいのか、ところのメッセージを読み取ることが理解となる。万引きの背景にいじめがある事例を例として理解の視点および理解の仕方を解説する。さらに、発達に偏りがある場合・発達障害がある場合などの理解の方法も学ぶ。

2. 作品や遊びからところを読み取る

子どもの絵や作文、遊びからところの読み取り方を学び、ところのケアの仕方の基礎を学ぶ。

3. 自分の主観を知ること

人間は皆主観を持っている。しかし、主観に振り回されていたのでは、他者を他者のままだに見ることはできない。すなわち理解することはできない。そのためには、自分の主観に気づくことが必要である。

4. コミュニケーション論を学ぶ

現代の教育場面は学校における問題が多発し、教育相談が重要な意義を持っている。その際、組織的対応が求められ、その際にはコミュニケーションが発生する。また、保護者からの教育相談の場合、相談を円滑に進めるためのコミュニケーション方法を学ぶ。

5. 教育相談について

学校内で起きる問題、いじめや不登校について、児童生徒理解に基づき、的確な教育相談を実践できるようにする。

●事前購入が必要なテキスト ※受講者が個別に購入してください。

『子どものころ、大人のころ 先生や保護者が判断を誤らないための手引書』

原田眞理 著 ナカニシヤ出版 2,530 円

◇事前学習(2 時間:課題含む)

1. テキスト学修
2. 課題

◇双方向型ライブ講習(3 時間)

◇修了試験(1 時間)

以上